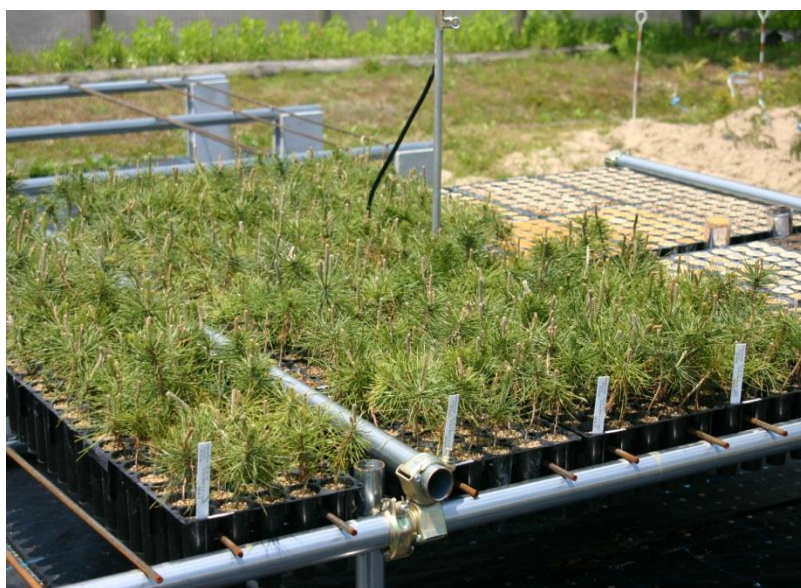


研究の背景・目的

海岸砂丘地では植栽したクロマツの活着率が低い場合があります。その向上が求められています。そこで、コンテナと呼ばれる育苗容器を用いて培土付のクロマツ苗を育成し、砂丘地においてこのコンテナ苗を植栽し、活着率の向上が図れないか調査します。また、菌根菌と呼ばれるきのこ類には樹木と共生し、土壌中の水分を補足する働きがあることが知られています。そこで、菌根菌の1種であるショウロを接種したクロマツコンテナ苗についても活着率を調査します。

研究方法

- 1) ココピートや鹿沼土などを混合した4種類（ショウロを接種したものを含む）の培土を用いてクロマツコンテナ苗の育苗技術を確立します。
- 2) H27年2月、海岸砂丘地において育成したコンテナ苗を植栽します。H27年4～5月活着率を調査します。



育苗中のクロマツコンテナ苗

研究成果の活用・今後の研究計画

海岸砂丘地において、活着率の高い苗木を植栽できることによって、植栽コストを削減し、クロマツ林の再生に寄与します。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 森林保護育成科
研究担当者 : 陶山 大志 (すやま ひろし)

問い合わせ先 : 0854-76-3823

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : コンテナ苗を用いたクロマツ海岸砂丘地林の造成 (H26)